
 記 事

○第10回通常総会

昭和47年5月12日(金)午後1時30分から、機械振興会館6階会議室において、第10回通常総会を開催した。出席者1,308名(うち委任状1,258名,正会員数5,869名)。

定款にもとづき、清野会長を議長にして、下記の議案につき審議し、異議なく承認された。

第1号議案 昭和46年度事業報告承認について

第2号議案 昭和46年度収支決算および貸借対照表承認について

第3号議案 昭和47年度事業計画承認について

第4号議案 昭和47年度予算承認について

第5号議案 定款の改訂承認について

第6号議案 昭和47年度役員改選承認について

上記議案の審議が終了した後に、昭和46年度論文賞が三上徹君(日電)外5名、2件に授与された。

なお、同総会終了後、高橋前会長が「電子計算機随想——メーカへの要望——」と題し、特別講演を行なった。聴講者50名。

第10回通常総会で承認された内容は、つぎのとおりである。

1. 昭和46年度事業報告

1. 会 員

昭和47年3月31日現在の会員数はつぎのとおりである。

正 会 員	5,599名
学生会員	136名
賛助会員	236.5口(129社)

2. 会議の開催

2.1 第9回通常総会

昭和46年5月12日(水)午後1時30分より機械振興会館(東京都港区芝公園21号地1-5)において、第9回通常総会を開催した。出席者1,082名(うち委任状1,052名,正会員数4,829名)。定款にもとづき、高橋会長を議長に選出したのち、下記の諸事項につき審議し、異議なく承認された。

1. 昭和45年度事業報告ならびに収支決算報告

2. 昭和46年度事業計画(案)ならびに予算(案)

3. 昭和45年度論文賞表彰

昭和45年度論文賞として、下記2件の表彰を行なった。

○「電子計算機による和文英訳」坂井利之、杉田繁治、渡辺明正

○「図形処理および連想処理のための高度並列演算装置」棟上昭男、山口徹郎

4. 新役員の選出について

なお、46年度の役員はつぎの通り選出された。(○印は新役員)

会 長 ○清野 武

副 会 長 大泉充郎, ○高田昇平

常務理事 浦 昭二, 尾関雅則, 高橋 茂,
高柳 晃

理 事 ○池野信一, ○猪瀬 博, 後藤英一,

○坂井利之, ○竹下 享, 中原啓一,

○美間敬之

監 事 藤井 純

新会長の就任のあいさつがあり、総会を終了した。

なお、これに引きつづき、山内二郎君(前会長)が「情報処理教育の現状」と題し、特別講演を行なった。聴講者約50名。

2.2 昭和46年度第1回臨時総会

昭和46年10月21日(木)午後4時より、機械振興会館において、昭和46年度第1回臨時総会を開催し、

1. 昭和47年10月に、日米コンピュータ会議を本学会が AFIPS と共催する件

2. IFIP 東京大会積立金200万円を日米コンピュータ会議の立上り資金として昭和46年度中経費の支出に当てる件

の2件につき、審議の結果、満場一致これを承認した。出席者1,350名(うち、委任状1,338名,正会員数5,329名)。

2.3 理 事 会

昭和46年4月開催の第131回理事会以降47年3月まで12回開催した。

3. 学会誌の発行

3.1 編集幹事会

昭和46年4月開催の第126回以降、毎月1回、計11回を開催した。同年度の幹事は、つぎのとおりである。

編集担当理事 浦 昭二(常務)、池野信一

幹 事 飯田善久、石田晴久、伊藤朗、遠藤誠、釜江尚彦、亀田壽夫、草鹿庸二郎、樽松 明、今野衛司、近谷英昭、渋谷多喜夫、末包良太、鈴木誠道、高山龍雄、戸川隼人、花田悦俊、林達也、淵 一博、穂鷹良介、真子ユリ子、三浦大亮、渡辺一郎

なお、文献ニュース小委員会(主査 末包良太)を昭和46年4月から同年度内に6回開催した。

3.2 学会誌の発行

昭和46年4月から47年3月まで「第12巻4号～12号第13巻1号～3号」計12号を各号 B5判約70ページを原則とし、第12巻8号は「超大型機」、第12巻11号は「教育」の特集号として発行した。

3.3 英文誌の発行

昭和47年3月に「Information Processing in Japan」Vol. 11 (1971)を1,000部発行し、海外の主要大学・研究所に配布した。

3.4 会員名簿の発行

昭和46年8月末現在で、全会員から提出された名簿作成資料にもとづき、会員名簿を作成し、昭和46年12月全会員に配布した。

4. 大会、後援会

第12回大会

昭和46年12月2日(木)3日(金)の両日、東京都千代田区平河町の全共連ビルおよび日本都市センターで第12回大会を開催した。特別講演として、「大形電子計算機 DIPS について」関口良雅君(通研)ほか、招待講演2件、パネル討論会2件、一般講演205件、参加者延約3,000名であった。

5. 研究活動

5.1 研究委員会

○計数言語学(CL)研究委員会(主査 和田 弘、以下31名)奇数月第3土曜日午後3時に3回開催した。

○教育調査研究委員会(主査 山内二郎、以下17名)毎月第3月曜日に11回開催した。

○LDG/AWG 研究委員会(主査 岩村 聯、以下

12名) IFIP/TC2 の ALGOLWG の活動に協力し、わが国の意見を提案した。

○マン・マシン・インターラクシオン研究委員会(主査 大須賀節雄、以下13名)月1回計10回開催した。

○歴史研究委員会(主査 末包良太、以下10名)隔月に計6回開催した。

○計算機設計自動化研究委員会(主査 元岡 達、以下14名)毎月1回計10回および8月に箱根で3日間にわたりシンポジウムを行なった。

5.2 情報処理月例会、シンポジウム

○情報処理月例会(運営委員会主査 池野信一、以下8名)「ビデオコンプとコンポジション言語」昆野誠司君(管理工学研)ほか8件の講演を毎月第3火曜日午後3時から機械振興会館で開催した。

○第13回プログラミング・シンポジウム(委員長 山内二郎)

47年1月11日～13日の3日間、箱根で開催した。発表件数22件、参加者約200名であった。

○情報公害シンポジウム(委員長 山内二郎)

46年7月8日～10日の3日間箱根で開催した。参加者20名。

○システム制御シンポジウム(委員長 山内二郎)

46年8月16日～18日の3日間湯ヶ原で開催した。参加者30名。

6. 規格調査活動

6.1 規格委員会(委員長 和田 弘、幹事 高橋茂、海宝 顕、以下委員29名)

前年度に引き続き、ISO/TC97 の国際規格の回答原案の作成を行なった。

なお、同規格委員の下部機構に ISO/TC97 の組織に対応する SCI/SC8、WG-K の各専門委員会と SCI/WGI、WG-A、SC4/WG1～WG6 等の各小委員会において、活発に活動した。

6.2 日本工業規格(JIS)原案作成委員会

通産省工業技術院から委託の JIS 原案2件につき、前年度より引きつづき作業を行ない、完了した。

(1)「論理回路記法」JIS 原案作成委員会(委員長 穂坂 衛、以下14名)

(2)「COBOL」JIS 原案作成委員会(委員長 水野 幸男、以下19名)

6.3 「漢字コード」委員会(主査 林 大以下7名)前年度に引きつづき、7回開催し、標準コード用漢

字表(案)を作成した。

7. 出版活動

7.1 電子計算機ユーザ調査年報

1972年度版を47年3月に編纂発行した。

7.2 情報処理ハンドブック

46年度以来編集発行のための作業をすすめていたが、47年5月に発行の予定である。

8. 国際活動

8.1 第1回日米コンピュータ会議

上記第2.2項の「昭和46年度第1回臨時総会」の決議にもとづき、第1回日米コンピュータ会議を昭和47年10月3日～5日の3日間、日本都市センターで開催するため、運営委員会と、これを実行する各委員会を下記のようにもうけ、諸般の準備に万全を期している。

高田昇平(運営委員長)、河野忠義(事務局長、婦人プログラム委員長)、高柳 晃(監事)、高崎 勲(財務委員長)、後藤英一(論文委員長)、尾関雅則(登録委員長)、安藤 馨(設営委員長)、猪瀬 博(印刷・出版委員長)、美間敬之(展示委員長)、藤井 純(広報委員長)。

なお、本会議はセッション数15、論文数70で参加人員700名が見込まれ、本会議と並行して東京流通センターにおいて約2,000m²の規模の展示会が開催される。

8.2 IFIPI (情報処理国際連合)

(1) 第4回 IFIP Congress

ユーゴスラビアのリュビリア市で、46年8月23～28日に開催され、わが国から後藤理事以下19名が参加した。

(2) IFIP 理事会、総会

上記 Congress 開催の前に(8月17日～21日)、理事会ならびに総会が開かれ、後藤理事が出席した。なお、会長に Zemanek (オーストリア)、副会長に後藤英一(日本)、Douglus (イギリス)の各氏が選出された。

8.3 ISO/TC 97 関係国際会議

(1) 東京会議

46年9月27日～10月7日に、東京において SC 4 / WG 6, SC 4 / WG 4 および SC 2 を開催した。

参加者延161名

(2) 海外における会議

SC 1 がパリで4月19日～28日に開かれ、井上誠

一君(国際電電)外1名が出席したのをはじめ、CS(2回)、WG(1回)、PG(4回)の各国際会議に約15名が出席した。

9. 論文賞の選定

論文賞選定委員会(委員長 大泉副会長以下16名)において、46年度論文賞の選定を行ない、下記2件を41年5月開催の第10回総会において表彰することとなった。

○「コンピュータ・システム性能評価シミュレータ PACSS」三上 徹、久保秀士、高橋 勲、有福義範、北浦 隆。

○「EDPS 化日程計算の一方法」栗野敏雄。

10. 支部

10.1 関西支部(支部長 米花 稔)

- (1) 支部総会(46年6月15日)
- (2) 評議員会(46年5月22日)
- (3) 幹事会(46年7月13日、12月10日)
- (4) 講演会
- (5) 研究会

システム・ソルビング研究会、プログラミング言語研究会

(6) 見学会

10.2 東北支部(支部長 大泉充郎)

- 支部設立総会(47年1月29日)
 幹事会(47年2月、3月)
 講演会(47年2月、3月)

2. 昭和46年度決算報告

収 支 計 算 書

昭和46年4月1日より昭和47年3月31日まで

(単位: 円)

支 出			収 入		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
一般会計			入 会 金	375,000	394,800
会員連絡費	1,372,000	747,550	会 費	16,200,000	16,083,800
会議費	1,500,000	878,224	賛助会費	6,400,000	4,670,000
会誌発行費	16,720,000	13,794,516	事業収入	12,952,400	11,656,710
研究委員会費	2,550,000	1,594,325	委託補助金	4,990,000	7,170,000
事業費	4,599,803	3,876,462	利息収入	123,000	285,909
海外活動費	1,300,000	1,233,604	雑収入	100,000	546,579
事務局費	8,567,000	7,895,791	前期繰越金	1,281,554	1,281,554
支部費	500,000	55,170			
賛助会費	118,000	43,000			
支払手数料	234,000	330,742			
予備費	1,115,285	247,000			
退職給与引当金		60,672			
小 計	38,576,088	30,757,056			
特別会計					
調査費	2,645,866	3,630,777			
規格調査予備費	1,200,000	0			
小 計	3,845,866	3,630,777			
繰越金		7,701,519			
合 計	42,421,954	42,089,352	合 計	42,421,954	42,089,352

貸 借 対 照 表

昭和47年3月31日 (現在)

(単位: 円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	15,383,196	流動負債	12,820,739
現金	241,217	未払巴(注2)	6,928,525
銀行預金	5,688,323	前受金	5,972,800
定期預金	6,505,000	仮受金	0
諸預金	850,300	減価償却	△ 80,586
未収入金(注1)	2,098,356	IFIP東京大会積立金	0
仮払金	0	UJCC立替引当金	2,000,000
固定資産	3,609,696	退職金積立金	800,803
什器備品	198,593	資 本	3,371,350
退職金引当金	800,803	基本資本	500,000
UJCC立替金	2,000,000	前期繰越金※	1,281,554
電話加入権	10,300	当期繰越金※	1,589,796
敷 金	600,000		
合 計	18,992,892	合 計	18,992,892

※ 1,281,554円+1,589,796円=2,871,350円……………(1)
 (前期繰越金)(当期繰越金)(繰越金合計)

2,098,356円-6,928,525円=△4,830,169円……………(2)

(未収金)(未払金)(現金収支のない資産増加額)

(1) 2,871,350円-(2)△4,840,169円=7,701,519円

(収支計算書繰越金)

(注1), (注2) の内訳

未 収 入 金		未 払 金	
一 般 会 計	1,298,356	一 般 会 計	6,691,108
別刷代	175,825	関西支部	400,000
広告料	764,223	英文誌	1,479,200
予稿集	180,000	学会誌	782,385
学会誌売却	178,308	別刷	69,523
特別会計	800,000	UJCC事務費	1,600,000
視格調査	800,000	事務局費	250,000
		会議費	30,000
		賛助会員還元	80,000
		事務所建設協力金	2,000,000
		特別会計	237,417
		I S O 関 係	148,519
		J I S / C O B O L	58,898
		規格特別積立金	30,000
計	2,098,356	計	6,928,525

3. 昭和47年度事業計画

1. 会 員

正 会 員 6,600名(予定)ただし46年度末 5,599名
 学生会員 200名(予定) “ 136名
 賛助会員 260口(予定) “ 236.5口

2. 会 議

総 会 年1回(5月)開催
 理 事 会 年12回(毎月)開催

3. 事業活動

3.1 学 会 誌

「情報処理」月刊,「英文誌」年刊を発行する。
 「情報処理」は逐次増頁を行ない,解説・講座その他を増強し,論説など新しい企画を取り入れ内容を充実させると共に,特集号を年2回程度,さらに小特集号を随時計画する。

3.2 大 会 ・ 講 演 会

第13回大会を開催すると共に一般講演会を月例と合わせ,会員の発表の場も兼ねて年数回積極的に開催する。

3.3 研 究 委 員 会, 研 究 会

情報処理月例会をはじめ,計算言語学研究委員会,教育調査研究委員会,マン・マシン・インターラクシオン研究委員会,歴史研究委員会,ALGOL研究委員会,計算機設計自動化研究委員会,プログラミング・シンポジウムなど,従来の研究会をさらに充実させると共に,新企画の研究会を発足させ広く会員がこれに参加できるようにし,また,進んで研究発表の場となるよう調査研究運営委員会において積極的に検討する。

3.4 調 査 研 究 活 動

規格委員会をはじめ規格専門委員会 (SC)、漢字コード委員会、JIS 規格原案作成委員会など、規格調査活動を行なう。

3.5 諸事業

論文賞の表彰、「1973年版電子計算機ユーザー調査年報」の編集などのほか、新しい事業を計画するためプランニング委員会を設け、自主出版活動を含め積極的に検討する。

4. 国際活動

4.1 第1回日米コンピュータ会議

第1回日米コンピュータ会議を10月3日～5日(於日本都市センター) 同展示会を並行して10月3日～7日(於東京流通センター) AFIPS と共催する。

4.2 IFIP, ISO の国際会議

5. 支部活動

関西支部 (支部総会, 幹事会, 研究会, 講演会, 見学会など)

東北支部 (支部総会, 幹事会, 研究会, 講演会, 見学会など)

4. 昭和47年度予算

昭和47年4月1日より昭和48年3月31日まで

(単位: 円)

支出の部		収入の部	
科目	年度予算額	科目	年度予算額
一般会計		一般会計	
会員連絡費	1,575,000	入会金	375,000
会議費	1,170,000	入会費	24,810,000
会誌発行費	20,680,000	賛助会費	5,200,000
研究委員会費	2,750,000	大会費	1,800,000
海外活動費	800,000	会誌売却別刷代	2,000,000
事業費	3,000,000	広告料	5,000,000
事務局費	9,600,000	調査年報	300,000
支部費	550,000	情報処理	240,000
賛助会費	140,000	ハンドブック	240,000
支払手数料	350,000	月例会	100,000
		委託補助金	300,000
		利息収入	500,000
		雑収入	963,678
予備費	1,213,678	前期繰越金	41,828,678
計	41,828,678	計	
特別会計		特別会計	
規格調査	2,720,000	規格調査	3,600,000
J I S (用語)	250,000	規格協会 ISO 補助	250,000
J I S (コード)	200,000	J I S (用語)	250,000
規格調査特別積立金	1,000,000	J I S (コード)	200,000
予備費	2,037,672	前期繰越金	1,907,672
計	6,207,672	計	6,207,672
総勘定支出	44,785,000	総勘定収入	45,165,000
総勘定予備費	3,251,350	総勘定前期繰越金	2,871,350
合計	48,036,350	合計	48,036,350

特別会計: 日米コンピュータ会議予算 (案)

(単位: 千円)

支出の部		収入の部	
科目	実行予算	科目	実行予算
会議準備費	13,130	参加費	15,860
事務局賃料	400	正員前納会費	11,340
人件費	1,300	正員後納 "	1,470
代行費	1,500	非会員 "	1,250
旅費交通費	180	学生会員 "	900
会合費	875	家族会員 "	900
印刷費	893	展示会収入	25,500
出版費	5,500	プロシーディングス	3,500
消耗品費	710	売上上げ	
通信費	510		
広報費	162		
海外連絡費	2,100		
会議運営費	7,687		
会場借料	1,112		
会場設備	950		
同時通訳	3,075		
輸送費	770		
接待費	380		
役員宿泊費	200		
会議要員	300		
婦人プログラム	900		
展示会支出	21,500		
予備費	2,543		
合計	44,860	合計	44,860

5. 定款の改訂について

5.1 定款の変更条項

(1) 第3章第6条第1項 (4) 中

学生会員は、大学学部又は之に準ずる学校の在學生とするとあるのを、

学生会員は、大学学部および大学院修士課程又は之に準ずる学校の在學生とする

に変更する。

(2) 第3章第7条第1項, (1), (2) 中

正会員, 賛助会員および学生会員の会費年額は、次のとおりとする。

(1) 正会員費 3,000円

(2) 賛助会員費 1口 20,000円

とあるのを、

正会員, 賛助会員および学生会員の会費年額は、次のとおりとする。

(1) 正会員費 4,800円

(2) 賛助会員費 1口 30,000円

に変更する。

5.2 定款の新旧比較対照表

新 (変 更 後)	旧 (現 行)
第 3 章 会 員	第 3 章 会 員
第 6 条 会員の種別は、次の四種とする。	第 6 条 会員の種別は、次の四種とする。
(1) 正会員は、この法人の事業範囲において、専門の学識または相当の経験を有する者とする。	(1) 正会員は、この法人の事業範囲において、専門の学識または相当の経験を有する者とする。
(2) 賛助会員は、この法人の目的事業を賛助する者または団体とする。	(2) 賛助会員は、この法人の目的事業を賛助する者または団体とする。
(3) 名誉会員は、この法人の事業範囲において、特別の功績があり、理事会の議決を経て推薦された者とする。	(3) 名誉会員は、この法人の事業範囲において、特別の功績があり、理事会の議決を経て推薦された者とする。
(4) 学生会員は、大学学部および大学院修士課程又は之に準ずる学校の在學生とする。	(4) 学生会員は、大学学部又は之に準ずる学校の在學生とする。
2. 正会員をもって民法上の社員とする。	2. 正会員をもって民法上の社員とする。
第 7 条 正会員、賛助会員および学生会員の会費年額は、次のとおりとする。	第 7 条 正会員、賛助会員および学生会員の会費年額は、次のとおりとする。
(1) 正 会 員 費 4,800円	(1) 正 会 員 費 3,000円
(2) 賛助会員費 1口 30,000円	(2) 賛助会員費 1口 20,000円
(3) 学生会員費 1,500円	(3) 学生会員費 1,500円

5.3 実施の時期

(1) 47年度会費として、すでに3,000円を納入済みの正会員は、下期分として900円を追加納入していたことにします。(10月1日以降の下期入会の新会員は、2,400円を納入していただきます。

(2) 賛助会員は、団体のため大半が年度予算を計上し、47年度はすでに大方が払込みを完了されているので、改訂会員費(1口30,000円)は、48年度より実施することといたします。

5.4 改訂の理由

本学会は、時代の要請に応じて、情報処理に関する学問、技術および関連事業の振興に寄与するための活動をつづけてまいりました。昭和45年より会誌「情報処理」を隔月発行から月刊にあらため、内容を充実させ平均70頁に増頁し、年2回程度の特集号を企画すると共に、大会を盛大にするなど、広く会員にその成果を還元する方向で進めてまいりました。

しかしながら、会員各位からはさらに活発な学会活動に期待が寄せられ、学会誌のみについてもその内容(質・量共に)の充実を要望する声は、日ごとに大きくなり、学会としても会員各位の熱意に応える責任を痛感しているものであります。

当学会は創立以来10余年を経過し、会員各位の熱心なご協力により、現在の会員数は、正会員・学生会員

をあわせ6,000名をこえ、情報化時代の進展に伴って、当学会の活発な活動は各方面から期待されているところであります。

しかしながら、最近郵便料金の値上げに見られるように、諸物価の異状な高騰に伴ない、支出経費の増大が著しく、学会費のすべてを会誌「情報処理」ならびに英文誌の発行に当てている現状では、今後の運営が非常に困難であるばかりでなく、諸事業に充当すべき賛助会費は、役員の献身的努力にもかかわらず、ここ数年来伸びなやみの状態で、昭和46年度のように諸事業を一時縮小するといった非常手段を講じなければ運営できない状態となってまいりました。加えて、当学会事務局はあまりにも手狭であり作業環境も好ましくないうえ、会議室・倉庫関係も他関連企業のご好意によって借用しているといった現状であります。たまたま通産省のご後援により(社)日本工学会が計画推進中の各学会を集めたビルの建設が軌道に乗り、近く入居者の申込みを実施する段階であります。その入居敷金の調達にも苦慮しているところであります。

他方、会員の今後の見通しは、毎年約1,000名の増加はかたく、近い将来10,000名を越えるものと予想され、会誌の編集発行、会員各位に直接還元する諸事業の活発化など将来を予測し長期の展望を考慮する必要があり、これらについては昭和47年度事業計画(案)

にも反映されています。以下学会の円滑な運営をはかるために、会費の改訂もやむを得ないものと思われるので、参考資料(5)を添付して、提案する次第であります。

なお、学生会員費については、会費を従来通り据置くと共に、学生会員の範囲を拡げ、大学院修士課程の在生までとしました。これは学生会員は将来正会員になっていただけると推察し、学生会員の増加を図ろうとするものであります。

(2) 昭和35年度よりの主要項目の状況

年 度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
正 会 員 数	800	993	1,223	1,479	1,842	2,098	2,219	2,237	2,829	3,584	4,605	5,599
正 会 員 費	1,000(円)	"	"	"	"	1,600	"	2,000	"	"	3,000	"
会 費 総 額	813(千円)	785	1,054	1,144	1,731	2,945	3,387	4,522	5,373	6,501	13,038	16,083
学会誌編集発行費	669(千円)	1,518	1,827	2,088	2,789	2,943	3,389	3,744	4,497	5,821	11,088	13,794
会員連絡費と事務局費	235(千円)	767	882	1,355	2,330	2,680	2,856	3,303	3,841	5,979	6,495	8,643

6. 昭和47年度役員改選について

1. 定款第16条にもとづき、去る4月に行なわれた昭和47年度役員選挙の結果、下記の8名が選出された。

副会長候補 穂坂 衛 (東大)

理事候補

(研究・教育)

大野 豊 (鉄研), 和田英一 (東大)

(製造・販売)

中沢喜三郎 (日立), 水野幸男 (日電)

(利 用)

落合 進 (国鉄), 杉浦淳一郎 (日電)

5.5 参考資料

(1) 関連学会の会員費は、つぎのとおりである。

学 会 名	正 会 員 費	賛 助 会 員 費
電 子 通 信	4,800	20,000
電 気	4,800	15,000
計 測 自 動	3,000	30,000
物 理	4,500	15,000
応 物	5,300	15,000

監事候補 河野忠義 (日立)

2. 昭和47年度留任役員

会 長 清野 武

副会長 高田昇平

理 事 池野信一, 猪瀬 博, 坂井利之,
竹下 亨, 美間敬之

3. 退任役員

副 会 長 大泉充郎

常務理事 浦 昭二, 尾関雅則, 高橋 茂,
高柳 晃

理 事 後藤英一, 中原啓一

監 事 藤井 純

第1回日米コンピュータ会議について

標記国際会議の Tentative Technical Program が下記のように決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、主催・協賛学会会員の予約割引参加申込み期限は **7月末日** ですので、お早目にお申し込みください。(割引参加費 18,000 円, 8 月以降 21,000 円)

参加申込み先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館
 (社情報処理学会内)
 第1回日米コンピュータ会議事務局
 電話(03) 431-2808, 402-9317 (分室)

参加費払込み先 住友銀行麴町支店普通口座：第1回日米コンピュータ会議事務局



Session 1 Opening Session

Details to be announced.

Session 2 Artificial Intelligence and Pattern Recognition

Chairmen: J. A. Feldman (Stanford University)
 Y. Komamiya (Electrotechnical Laboratory)

A Theoretical Study of the Pattern Identification by
Matching Method
T. Iijima (Tokyo Institute of Technology), H. Genchi,
and K. Mori (Toshiba Ltd.)

An Interactive Finite-State Language Learner
A. W. Biermann (Ohio State University)

Associative Memory for Spatio-Temporal Patterns
K. Fukushima (NHK)

Generative Computer Assisted Instruction: An Application
of Artificial Intelligence to CAI
E. B. Koffman (University of Connecticut)

Computer Analysis and Classification of Photographs of

Human Faces

T. Sakai, M. Nagao, and T. Kanade (Kyoto University)

Advanced Optical Character Reader System

J. D. Erwin (Recognition Equipment, Inc.)

Synthesis of Automata that Recognize Given Strings and
Characterization of Automata by Representative Sets of
Strings

H. Enomoto, E. Tomita, and S. Doshita (Tokyo Institute of
Technology)

Session 3 Hardware for Mass Storage and Peripherals

Chairmen: L. C. Hobbs (Hobbs Associates, Inc.)
H. Genchi (Toshiba Ltd.)

Mass Storage - Past, Present and Future

A. S. Hoagland (IBM Corporation)

Kanji System: A New Method in Japanese Sentence Input

K. Mori, H. Hirahara, and K. Kikuchi (Toshiba Ltd.)

The Impact of Technology on Present and Future Input/Output
Equipment

I. L. Wieselmann (Data Products Corporation)

FACOM 6502A Kanji Line Printer

A. Ishii, Y. Hagiwara, T. Imagi, and H. Takahashi (Fujitsu
Ltd.)

Session 4 Computers and the Humanities

Chairmen: J. Raben (Queens College of the City University of New York)
Japanese chairman to be announced.

Historical Data and Computer: The Japanese Diet, 1890-1970
G. Kuroda (University of Hawaii)

Following Factors in Sentence Succession, A Contrastive
Study of Japanese and English

S. Hayashi (The National Language Research Institute)

The Computer in Chinese Linguistic Research at the University
of California at Berkeley

W. S-Y. Wang and S. W. Chan (University of California)

A Computer Music Composing System

T. Matsuyama (Fujitsu Ltd.)

The Uses of Computers in Music, A State of the Art Report

R. F. Erickson (Queens College of the City University of
New York)

Session 5 System Performance and Evaluation

Chairmen: S. Kimbleton (University of Michigan)

T. Takeshita (IBM Japan, Ltd.)

Some Recent Progress in Analytic Studies of System Performance
H. Kobayashi (IBM Corporation)

A Microprogrammed Computer Design and Evaluation System
M. Yamamoto, M. Hattori, M. Yano, K. Hakozaiki, K. Kagiya,
and K. Fujino (Nippon Electric Co., Ltd.)

Performance Analysis and Optimization of Computer Systems
Using Markovian Models

K. B. Irani and I. S. Uppal (University of Michigan)

A Comparative Evaluation of FORTRAN Processing Systems
S. Moriguti (University of Tokyo), H. Kameda (University of
Electro-Communications), D. Miura (Toray Industry, Inc.),
H. Ishida (University of Tokyo), K. Yajima, and J. Tsunekawa
(Institute of the Union of Japanese Scientists and Engineers,
Inc.)

Session 6 Architecture and Large-Scale Systems

Chairmen: H. Schorr (IBM Corporation)

Japanese chairman to be announced.

The Development of the High Speed National Computer Project
K. Nakazawa, K. Murata, K. Ishihara, H. Iwakami, H. Horikoshi

(Hitachi Ltd.), H. Nishino (Electrotechnical Laboratory), and
K. Noda (Electrotechnical Laboratory, presently Matsushita
Technical Laboratory)

LSI and Systems Architecture in the 1970's
M. G. Smith (IBM Corporation)

A Large Scale Data Processing System: DIPS-1
K. Takashima, I. Toda, K. Arai, and M. Yamada (Nippon Telegraph
and Telephone Public Corporation)

Session 7 Programming Languages

Chairmen: H. Bromberg (Information Management Inc.)
 K. Yajima (Institute of the Union of Japanese Scientists
 and Engineers, Inc.)

ALGOL-N
T. Simauti (Rikkyo University)

AMTRAN 71
J. Reinfelds (University of Georgia)

FORMAL-2: A Simple Data-Free Form-Expressional Programming
Language with Nondeterminism
K. Noshita, I. Takeuchi, and M. Amamiya (Nippon Telegraph
and Telephone Public Corporation)

SPEAKEASY 'Rakugo'
S. Cohen (Argonne National Laboratory)

Survey of Programming Languages in Japan
T. Takeshita (IBM Japan, Ltd.)

Session 8 Computers in Health and Medicine

Chairmen: W. J. Dixon (University of California)
 C. Yoshimoto (Hokkaido University)

Multiphasic Health Examinations Using Computer Systems
M. F. Collen (Permanente Medical Group)

The Linkage to Radioisotope Data Terminal by PBX Telephone Line and Automated Image Processing
K. Takaya, T. Uehara, C. Yoshimoto, G. Irie, S. Nakamura (Hokkaido University), Y. Yamagishi, and Y. Iwai (Toshiba Ltd.)

Computer Mediated Tutorials in Medical Education: (ATS - A System for Teaching the Computer to Teach)
J. C. Weber, W. D. Hagamen, and D. J. Linden (Cornell University Medical College)

Pattern Recognition of Chest Photofluorograms
T. Fukumura, J. Toriwaki, and Y. Suenaga (Nagoya University)

FLUIDMOD: A Versatile CAI System for Medical Students
E. C. DeLand (The Rand Corporation), R. W. Winters, R. B. Dell (Columbia College of Physicians and Surgeons), and A. Zuckerman (Johns Hopkins University)

Session 9 Panel on Kanji I/O

Chairman: H. Ishida (University of Tokyo)
Details to be announced.

Session 10 Computer Displays

Chairmen: B. Lechner (RCA Laboratories)
M. Hosaka (University of Tokyo)

Clear-View Angelfish Bubble-Domain Display and Printing Devices
N. Hayashi and H. Chang (IBM Corporation)

Interactive Plasma Display Terminals
H. Miwa, T. Uozumi, H. Hayashi, S. Umeda, H. Furuta, and N. Nakayama (Fujitsu Ltd.)

Computer Techniques for Pseudocolor Image Enhancement
J. V. Lamar and R. H. Stratton (The Rand Corporation)

A Graphic System with Halftone and Area Coloring Capability
S. Kawai, E. Goto, M. Sassa, K. Itano, T. Ida, and M. Yasumura (University of Tokyo)

Computer-Aided Mapping Technology for Georgraphic Data Base
P. J. Min (IBM Corporation)

The University of Michigan Plot Description System and
Post-Processing Facilities
E. J. Fronczak (University of Michigan)

Session 11 Banking and Reservation Systems

Chairmen: H. D. Lechner (Fireman's Fund Insurance Companies)
S. Ishizaki (The Fuji Bank, Ltd.)

Data Telecommunication System of All Banks in Japan
Federation of Bankers Associations of Japan (ed.)

An On-Line Inquiry/Response System in Banking
P. L. Overmire (Wellsco Data Corporation)

Design of MARS-105 - The Large Scale Seat Reservation
Systems of Japanese National Railways
M. Ozeki, Y. Hayashi, K. Kohri (Japanese National Railways),
Y. Fuwa, and K. Kamogawa (Hitachi Ltd.)

On-Line Real-Time Banking System of NTT
A. Takayanagi and K. Hiratsuka (Nippon Telegraph and
Telephone Public Corporation)

Session 12 Mathematical Foundations of Information Processing

Chairmen: R. L. London (University of Wisconsin)
S. Takasu (Kyoto University)

General Theory of Flowcharts
K. Hirose and M. Oya (Waseda University)

An Analysis of a Tree Sorting Method and Some Properties
of a Set of Trees
W. H. Burge (IBM Corporation)

Algebraic Properties of Programs
Y. Kanayama (University of Electro-Communications)

Program Semantics and Correctness in a Mechanized Logic
R. Weyhrauch and R. Milner (Stanford University)

Complete Sets of Switching Elements and Related Topics
A. Nozaki (University of Tokyo)

Session 13 Automatic Design and Automatic Fault Diagnosis

Chairmen: U. S. chairman to be announced.
H. Aiso (Keio University)

Automatic Logic Analysis System
T. Moto-oka and F. Nomizo (University of Tokyo)

Methodology of Fault-Tolerant Computing
A. Avizienis (University of California)

A Design Language ADL and Its Application to Logical Design
M. Tokoro (Keio University)

Fault Diagnosis of Combinatorial Circuits Using Boolean
Differences
M. Inagaki (Nippon Electric Co., Ltd.)

Synthesis of Automatic Fault Diagnosable Logical Circuits
by Function Conversion Method
H. Inose and M. Sakauchi (University of Tokyo)

Session 14 Compilers, Assemblers, and Translators

Chairmen: U. S. chairmen to be announced
N. Yoneda (Gakushuin University)

An Assembler Generator
K. Utsunomiya, F. Homma, and T. Kadokura (Waseda University)

Global Optimization in Compilers: A Unified Approach
N. E. Abel and J. R. Bell (Digital Equipment Corporation)

An Efficient Assembler Building System - METAS Meta-Assembler
Y. Nitta, T. Uehara (Hitachi Ltd.), and A. Nozaki (University
of Tokyo)

Programming Language Translation Techniques
W. M. McKeeman (University of Toronto)

Hardware-Independent Compilers
A. Fujii, M. Yamazaki (Nippon Software Co., Ltd.), and
H. Nishino (Electrotechnical Laboratory)

Session 15 Industrial Applications

Chairmen: A. T. Devault (Digital Equipment Corporation)
N. Inada (Japanese National Railways)

Industrial Computer Applications - Past, Present and Future
B. F. Coe (E. I. du Pont de Nemours & Co.)

COMTRAC - A Computer Aided Traffic Control System for
Shinkansen
Y. Ishihara, S. Tanaka, Y. Ohno (Japanese National Railways), and
K. Wakabayashi (Hitachi Ltd.)

Investigation into the Process Control/Business Control
Interface
R. N. Millen (Columbia University)

Traffic Control System in Osaka
T. Hasegawa (Kyoto University)

Computer Generated Developments of Polyhedra
A. Appel and A. Stein (IBM Corporation)

Session 16 Computer Networks and Data Communications

Chairmen: J. C. Castle (General Electric Information Systems)
M. Kato (Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation)

Some Design and Evaluation Techniques for Data Communica-
tions Systems
J. H. Chang (IBM Corporation)

Data Transmission Systems of NTT
M. Ishikawa, A. Furuya, J. Magara, and Y. Shimojo (Nippon
Telegraph and Telephone Public Corporation)

Some Recent Advances in Computer Communications
W. W. Chu (University of California)

Session 17 Hardware for Logic and Memory

Chairmen: E. J. McCluskey (Stanford University)
O. Ishii (Electrotechnical Laboratory)

Design of a Parallel Encoder/Decoder for the Hamming Code,
Using ROM

H. Mitarai (Stanford University)

Estimation of IC ROM Packages Affected by Logical Changes
S. Matsushita and H. Banno (Toshiba Ltd.)

Packaging a Billion Operations Per Second Computer
R. Stotler and H. White (Burroughs Corporation)

Power Minimization Problem of Logic Networks
S. Yajima and K. Inagaki (Kyoto University)

Session 18 Operating Systems

Chairmen: J. Saltzer (Massachusetts Institute of Technology)
E. Wada (University of Tokyo)

Research Activities Around Operating Systems in Large
Computer Centers of the Universities in Japan

H. Kameda (University of Electro-Communications)

Conversational Systems Programming (or Program Plagiarism
Made Easy)

R. A. Krutar (Carnegie-Mellon University)

Design Concepts of DEMOS

Y. Mima, H. Ito, Y. Tachibana (Nippon Telegraph and
Telephone Public Corporation)

Advances in Computer Systems in the U. S.

E. I. Organick and C. L. Seitz (University of Utah)

A General Purpose Time-Sharing System Using a Mini-Computer

F. Hosogai, Y. Imamura (Toshiba Ltd.), W. F. Cook, and
M. T. Ling (Graphtek Corporation)

Session 19 Data Bases and File Management

Chairmen: E. F. Codd (IBM Corporation)
T. L. Kunii (University of Tokyo)

Compression Parsing of Computer File Data
W. D. Frazer (IBM Corporation)

A Generalized File Processor as Applied to Railway Scheduling Information System
N. Inada (Japanese National Railways)

Data Management with Variable Structure and Rapid Access
D. K. Hsiao (Honeywell Information Systems Inc.) and
F. Manola (Naval Research Laboratory)

An On-Line Scientific Information Retrieval System Based on a Natural Language Data Base
T. Yamamoto, T. L. Kunii, S. Fujiwara, and H. Takahasi
(University of Tokyo)

Session 20 Man-Machine Interaction

Chairmen: R. E. Garrett (Purdue University)
S. Ohsuga (University of Tokyo)

A Generalized Interactive Network Analysis and Simulation System
C. W. Gear (University of Illinois)

DIALS Design Concept
T. Shibayama and Y. Koizumi (Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation)

Toward a Market Success for CAI - An Overview of the TICCIT Program
J. L. Volk (The MITRE Corporation)

Computer-Aided Railway Traffic Planning System
Y. Iida (Japanese National Railways)

Computer Graphics in Preliminary Aircraft Design
R. L. Carmichael and T. J. Gregory (NASA-Ames Research Center)

GMS/I: An Interactive Graph Manipulation System
K. Torii, Y. Sugito, and Y. Mano (Electrotechnical Laboratory)

Treatment of Arbitrarily Curved Surfaces in Hemodynamic
Studies by Computer Graphics

R. DeBry and H. Greenfield (University of Utah)

Effective Use of Minicomputers in On-Line Interactive Infor-
mation Service Systems

J. Tsuda, N. Takeichi, and C. Hirano (Hitachi Ltd.)

Session 21 History of Computers

Chairmen: L. Fein (Palo Alto Unified School District)
R. Suekane (Electrotechnical Laboratory)

A Trilogy on Errors in the History of Computing
N. Metropolis and J. Worlton (Los Alamos Scientific
Laboratory)

Some Important Computers of Japanese Design
H. Takahasi (University of Tokyo)

The Development of Automatic Computing
H. D. Huskey (University of California)

Episodic History of Business Data Processing
I. Kobayashi (Nippon Univac Sogokenkyusho, Inc.)

Tentative Program Schedule

	Oct. 3 (Tue.)	Oct. 4 (Wed.)	Oct. 5 (Thur.)
0900			
1000	① Auditorium Opening Session	⑥ Auditorium Architecture and Large-Scale Systems	⑭ Auditorium Compilers, Assemblers and Translators
1100		⑦ Large Hall Programming Languages	⑮ Large Hall Industrial Applications
1200	Lunch	Lunch	Lunch
1300	② Auditorium Artificial Intelligence and Pattern Recognition	⑩ Auditorium Computer Displays	⑬ Auditorium Operating Systems
1400	③ Large Hall Hardware for Mass Storage and Peripherals	⑪ Large Hall Banking and Reservation Systems	⑰ Large Hall Data Bases and File Management
1500	④ Computers and the Humanities	⑫ Mathematical Foundations of Information Processing	⑱ Man-Machine Interaction
1600	⑤ System Performance and Evaluation	⑬ Automatic Design and Automatic Fault Diagnosis	⑲ Break
1700	② Cont. Demonstration of Computer Art and Music	⑩ Cont.	⑲ Cont.
1800	① Cont. History of Computers	⑬ Cont.	⑲ Cont.



Extended Sessions and/or Informal Meetings